平成１８年６月１日発行

かまぼこ

第２０号

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

多摩川諏訪囃子

♪テケテンテン　ドドツクツク　ピーヒャララ♪

お囃子はお祭りの花形である。多摩川二丁目諏訪神社には賑やかで華麗な演技で評判な、「多摩川諏訪囃子」が活躍している。江戸時代初期に「京都祇園囃子」を模し、そこに粋な江戸っ子気質を表現した「江戸囃子」を演奏している。

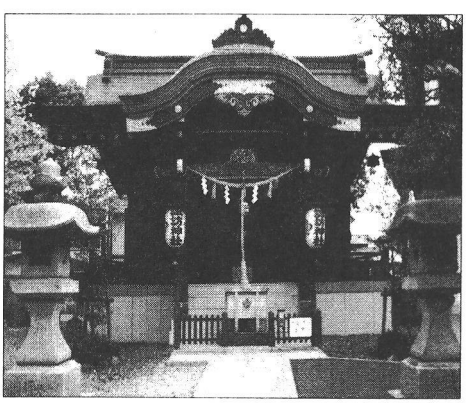
「地域の活性化のために立ち上げて4年になりますが、皆さんに歓迎され、今は充実した達成感に生きがいを感じています」。

と語ってくれたのは、指導者としての手腕を高く評価されている、会長の月村大助さんだ。

小中学生を含み、二十歳代が中心の若い会員で構成され、お囃子と地域を愛する人間教育をモットーに、大田区認定の社会教育団体にも加盟している。

演目は「屋台」・「昇殿」・「鎌倉」・「四丁目」と続き、最後に再び「屋台」で終わる組曲となる。演者は鉦1、締太鼓2、大胴1、篠笛1の五人衆で奏で、通常はこれに獅子舞も加わる。

歴史こそ浅いが、その卓越した表現力は、力強い躍動感に満ち溢れ、観る者、聴く者を魅了して心を盗む。「お囃子は奥が深く、リズム、テンポ、ハーモニーとも心技一体で演ずるもの」と、日々研鑽を怠らない。成果は顕著に浸透し近隣神社の祭りには常に声が掛るようになり、また最近の風潮は、単純な旋律と素朴さが若者に受け入れられるようになり、お囃子の価値観が変化し、各種の祝賀会やフェスティバル等に呼ばれ、地域間の交流にも役立っている。



大田区主催の行事では、ヤングフェスティバル、こどもガーデンパーティー、文化祭郷土芸能大会に参加。近隣では、道塚宮元睦商店会、矢口の渡商店会、多摩川二丁目町会50周年記念や都立雪谷高校90周年記念の祝賀会等のイベントに出演。その他、区老人ホームや盲学校への訪問公演し、好評を博している。

獅子舞は、厄払いの縁起ものとして慶事に歓迎され、お囃子との競演は圧巻である。

今後も会員皆様の研鑽と努力で更なる飛躍を期待します。

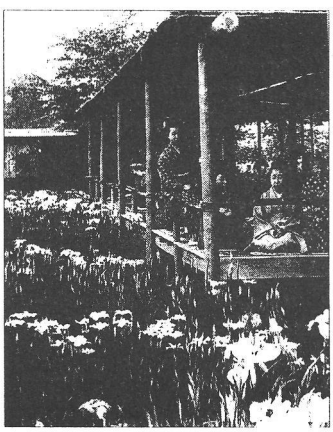
（取材　滝口委員）

蒲田菖蒲園とあやめ橋

蒲田の名所地として、明治中期より大正年間に広く知られた菖蒲園がありました。葛飾の堀切の菖蒲園と並んで有名で、明治35年、横浜植木株式会社が地元民の協力を得て、呑川べりの現在の蒲田小学校の場所に開設されました。菖蒲園は「加登屋（現在のBook Off）」付近を入口に蒲田小学校の曲がり角付近から呑川を境にした南は大屋敷通り一帯に、東は京浜急行駅付近まで北は蕚田神社付近まで延々と広範囲な敷き地を確保しました。大屋敷通りには昔から高輪の大木戸をくぐり「切り花」を江戸の街に売りに出た花屋の西山一族が住み、大正から昭和の初期まで花を栽培する農家が目につきました。「あやめ橋」の川岸にある蒲田小学校は明治12年開校した蕚田小学校が後に改名した歴史ある小学校です。ただ当時は、学校の周囲は農村で生徒の数も少なく校舎も狭い敷地内にありました。

陸蒸気（おかじょうき）とよばれた汽車は明治5年に新橋・横浜間に開通し、品川と川崎の間に大森駅が設置されたのは、4年後の明治9年と古いですが、蒲田駅の開業は28年も遅れて明治37年でした。その頃の汽車利用者で大森・蒲田の在住者は少数で、大森駅は池上本門寺や山王の八景園・大森海岸の海水浴または海岸の料亭の遊客で駅は賑わいましたが、蒲田は農村で駅の必要はなかったのです。ところが明治35年に菖蒲園が開園して堀切とならぶ名所となり、来園者のためにも、農村の開発・繁栄の願望から蒲田駅が誕生しました。鉄道院より発行された案内書には東京及び付近遊覧暦の6月の項には、花菖蒲のところに堀切村の小高園、向島百花園とともに蒲田菖蒲園と記載されています。

東京都の区分地図を見ると、世田谷区の桜新町・深沢を通過し、目黒区の八雲・大岡山の街中を流れる河川が「あやめ橋」の下を流れる呑川です。呑川は大田区に入り石川町・池上の山の下を流れ、広重の錦絵に昔の姿をとどめ、羽田で東京湾に流出します。第一京浜国道に架かる夫婦橋の上流で海水をせき止める堰（せき）がありました。そのため夫婦橋より上流には上げ潮でも、塩害の心配も無く農業用水としてこの川の水を使用できたのです。花菖蒲は水辺に咲く植物、呑川あっての蒲田菖蒲園なのです。



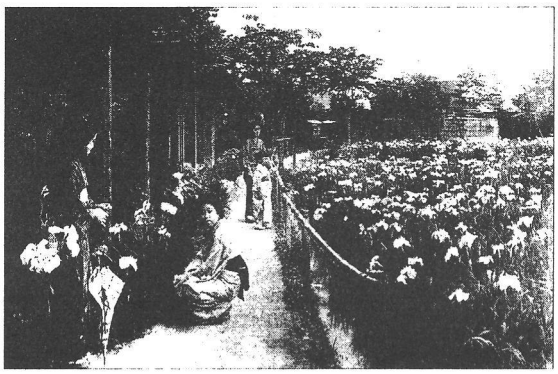
当時、アメリカで鉄砲百合とともに人気のあったのが花菖蒲で、横浜植木株式会社はすでに横浜磯子に菖蒲園を保持していましたが、海外からの旺盛な需要に充分応えることができず、新たな農場を捜していて、ようやく見出されたのが、東京府荏原郡蒲田村字北蒲田の約一万坪の土地でした。蒲田菖蒲園開設にともない磯子は閉鎖され、輸出目的の花菖蒲の栽培が蒲田で始められました。

駅（蒲田駅開設は翌明治37年）もなく、横浜から行くのにも不便な蒲田をあえて選んだのは、蒲田は花作りが盛んで、腕の良い職人が多く集まっていたからでした。また横浜の古い生花商の多くが蒲田出身者で、横浜ともつながりを持っていました。

菖蒲の開花期には広大な花園に一変して、多くの見物客でにぎわい、やがて堀切とならんで東京有数の名所となりました。園内には300余種の菖蒲を植え、ほかに牡丹花壇8、藤棚100メートルをつくり、桜、つつじなども植えました。季節には菖蒲の花は美しく咲き匂い、四季に応じて牡丹、藤の花、園内には鳥類、水鳥や猿などが愛嬌をふりまいており、赤い前掛けのお姐さんがお茶を運び、のり巻、いなり寿司などを売る茶店などがあって、日曜、祭日などの賑わいは華やかなものでした。

来園者も近隣は言うまでもなく、遠来の客もあって、なかには二頭曳きの馬車で遊山に来る高貴の客もあり、新橋あたりの美しい芸者さんも多数来園、また外国人も自動車に乗って乗りつけるありさま。その頃、自動車は珍しく、自動車に乗るものは外国人か、総理大臣位に思われていたので、子供たちは青い目の外国人には近寄り難いが、自動車珍らしさでそのまわりを囲んで悪戯をしたものです。

菖蒲園の入園料は大人五銭、小人三銭でした。明治35年開園



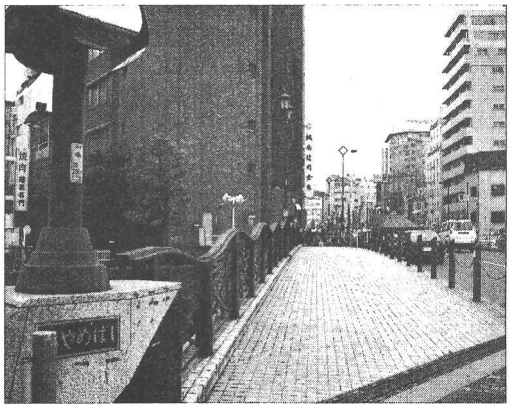
以来大正の中頃まで、梅屋敷とともに蒲田の名所の一つであり、季節の花を求めて憩いに人々が集まりました。園内の売店で買い求めた折詰め、持参の重箱に家族うち揃ってくつろぐ姿が、ここかしこに見られたものです。大正9年には蒲田に松竹の撮影所が建設され、女優さんたちの手踊りなどの余興が演じられたとのことです。

しかし、この菖蒲園も次第に時代の移り変わりの影響を受けるようになりました。周辺が住宅地に急変し、急激な児童数増加により隣接する蒲田小学校の増設が必要になり、菖蒲園は縮小され、蒲田駅からの東口通りは商店街に変化しました。その上、追い討ちをかける様に得意先であったアメリカ市場へ、ヨーロッパの各種花物の球根類が出回るようになり、花菖蒲の輸出は不振を極めるようになりました。大正10年3月、蒲田の菖蒲園は縮小されて、わずかに花物を培養する温室のみを残すだけとなりましたが、大正12年9月の関東大震災を機に、会社も経営から完全に手を引きました。その後敷地の一部には、蒲田区役所が建てられましたが、戦後は蒲田小学校の敷地に繰り入れられました。現在は蒲田小学校の前の呑川に架かっている橋の名が「あやめ橋」と名付けてあるのが菖蒲園の名残を伝えるだけです。

参考までに、アヤメ科の仲間である「アヤメ」「花菖蒲」「カキツバタ」の違いを判り易く述べておきます。ごく簡単に言いますと、花びらの基のところに、「花菖蒲」は黄色、「カキツバタ」は白、「アヤメ」は網目状の模様があることで区別できます。また、それぞれの開花期も若干のずれがあり、「アヤメ」は5月上中旬。「カキツバタ」は5月中下旬。「花菖蒲」は5月下旬から6月です。普通、「菖蒲」といえば「花菖蒲」のことで、花も大きく花色や花形が変化に富み、菖蒲園で公開されるのは、ほとんどが「花菖蒲」です。

端午の節句の「菖蒲湯」や「菖蒲酒」など古くから邪気を祓うと言い伝えられ、葉や根茎に独特の芳香がある「ショウブ」は、サトイモ科の植物で、その葉が「アヤメ」に似ていることから、昔から混同されてきました。

（取材　柏村、宮下、都築委員）



読者投稿
オーロラ紀行
北川 智一

一昨年、孫がカナダのユーコンに留学し、オーロラが幻想的・神秘的で素晴らしかったと聞き、2月22日～2月27日の6日間、私の傘寿と家内の喜寿を祝って、参加することにしました。

現地はエドモントンから、バスで5時間北上したフォートマクマレー、気温零下20度と尻込みしましたが、防寒服一式の無料レンタル付と聞き、冥土の土産にと参加しました。

エドモントンでは、通常10人程の観光客ですが、ジャンボチャーター便で一度に三百二十人の観光客に、街を挙げての大歓迎。市長始め、沢山の縫いぐるみ人形が空港までお出迎え、全員に市のマーク入りのマフラーをプレゼント。何故か私にテレビ局がインタビューして、人の話ではテレビにも出た様です。

ホテルは暖房完備の街一番、観測所はバスで30分程度の射撃場とスキー場。待機小屋の中では暖かい飲み物やお菓子も自由に食べられました。待機中に大阪市立大学南教授のオーロラガイダンスがありました。

一日目皆無、二日目それらしきものがチラリ、三日目数分間にわたり、漆黒の夜空に青い光が舞う素晴らしいオーロラを見る事ができました。現地ガイドも

「皆さんは本当に幸運です。時には何も見られずに帰られる方もあるのですよ。」

と喜んでくれました。

往路8時間50分、復路11時間20分の空の旅も期友の有川先生に頂いた安定剤でよく眠れ、16時間の時差ボケもなく快適な旅でした。

前向きな旅こそ長寿の秘訣です。

素晴らしいオーロラと北川さん夫妻

事務局からのお知らせ

この四月一日付けで、蒲田西特別出張所長に着任しました飯田 衛（いいだ まもる）と申します。

現在、区では「安心、輝き、潤い」のある都市をめざして、個別計画を策定し、具体化を図っていますが、その基になるのは地域の皆さんとの連携と協働だと考えています。

蒲田西の地域の皆さんが安心して暮らせる住みよいまち、住んでいて良かったと実感できるまちを皆さんのお力をお借りしながら一緒に作り上げていければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29，579人
	女	27，085人
	計	56，664人
世帯		29，741世帯

平成18年5月1日現在

編集後記

わがまちの顔では、こどもガーデンパーティー等で、お祭りをいつも盛り上げていただいている、多摩川諏訪囃子さんを紹介しました。若い方達が伝統芸能に取り組み、地域の行事を活性化している姿は素晴らしく光っています。今後も絶やすことなく活動を続けていただいて、地域に貢献していただきたいと思います。

特集記事では蒲田菖蒲園とあやめ橋を取り上げました。現在のあやめ橋周辺からは想像もつかない当時の写真に、蒲田の印象を新たにし、地域の歴史をさらに詳しく勉強してみたいと思わせられました。

投稿記事のオーロラ紀行を読んでみて、私もこんな旅がしてみたいと強く思いました。

投稿記事は引き続き募集しています。左記の事務局までドンドン投稿をお願いいたします。

情報紙に対するご意見・ご感想などを事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七―十二―七
（三七三二）四七八五